

寸言

民間航空機株式会社
専務取締役
藤森 政雄



Boeingとの量産事業を通じての日本の民間航空機機体事業への貢献

民間航空機(株)(Commercial Airplane Company (CAC))は、(財)民間輸送機開発協会(現(一財)日本航空機開発協会(JADC))が最初にBoeing社と共同開発した767事業の型式証明(TC)取得(=開発作業の完了)後の量産事業を実施する主体として1982年8月に創立されました。以降1998年7月に777、2011年10月に787の事業移管を受け、現在ではこれまでJADCがBoeing社と共同開発してきた全事業について、TC取得以降のBoeing社との量産事業を行っています。

CACのミッションは、Boeing社向けの量産機向け構造部位および補用品の製造販売(実際の製造は日本の機体製造会社であるJAI(MHI/KHI/SUBARU他)各社に製造委託)、および派生型機の開発作業(JAI各社に委託)です。

またこれらのミッションに加え、JAI各社を取りまとめた各機種の開発時にJADCが政府並びに(公財)航空機国際共同開発促進基金から受けた助成金に対する収益納付業務、(株)日本政策投資銀行から受けた融資の元本利子返済業務を行っています。

JAI各社のBoeing各機種における機体の生産部位は、

- ・767事業では、胴体・翼胴フェアリング等(機体生産分担比率16%)
- ・777事業では、胴体・ドア・中央翼・翼胴フェアリング等(同21%)
- ・787事業では、複合材前胴部位・複合材主翼ボックス・複合材中央翼等(同35%)

とBoeing社のベストセラー広胴機の重要部位を請負っています。CACとしてはBoeing社とJAI各社と連携しながら契約に従い品質の高い製品を着実に納入しBoeing社のビジネスに貢献していくことが求められます。

当社売上額はここ数年4,000億円規模で推移していますが、生産分担部位のBoeing社に対する売上ですのでBoeing社自体のビジネス状況次第で決まります。

現在JADCが参画してBoeing社が開発中の777Xについては、当初計画より若干の遅れはありましたが、2020年1月に初飛行がなされTC取得に向け着実に前進しています。777X事業についてもTC取得の暁には量産事業がCACに移管され、従来3事業に加え当社のミッションを果たしていくこととなります。

また昨今のBoeing社関連の話題としては、737MAXの生産状況・受注状況・第三四半期決算状況等に関するものですが、Boeing社にとって好ましい状況とはいいがたい状況です。また米中貿易摩擦の先行き、新型コロナウイルスの直近の市場への影響等に不安がある状況下、民間機の需要見通しは不透明さを増しています。

日本の民間航空機機体事業におけるBoeing社との協業の占める役割の重要性は言うまでもありません。当社としては、関係各位と着実なコミュニケーションに努め確実に担当事業の契約業務を履行していくことはもとより、Boeing社及びJAI各社のExecutives間でビジネスの方向性を共有し改善事項を協議する場を定期的に設け、JAI各社とBoeing社のより良いパートナー関係を構築する上での触媒となり将来のビジネス拡大の一助につなげたいと考えます。またBoeing社のより良きパートナーとしてJAI各社とともに我々のミッションを通して如何にBoeing社のビジネスに貢献していくか模索していきたいと思っております。今後とも関係各位のご支援をお願い申し上げます。

(生産分担比率はBoeing Japan ホームページより)